

# 総 説

## 1 地 勢

新見市は、岡山県の北西部に位置し、西は広島県、北は鳥取県に接し起伏の多い山間地で農林・鉱業を主体とした地域で、地域のほぼ中央に位置する市街地は、東西・南北を十字に貫く道路、鉄道の結節点ともなっております。また、中国地方を縦断する高速道路「中国自動車道」が走り、経済的・社会的にその機能と役割をはたしています。

## 2 沿 革

近年、道路交通網の整備や情報通信手段の急速な発達・普及に伴い、住民の日常の活動範囲はさらに広域化しており、これにより増大するニーズ、生活圏に合致した行政サービスの提供や広域交通網の一体的整備、また将来の都市像を「人と自然が奏でる 安全・快適・情報化文化都市」として、情報通信基盤整備など、各種施策を積極的に推進しています。

当本部は、新見市消防本部として昭和43年4月に発足し、昭和47年に隣接する1市4町で消防の広域化が図られ新見地区消防本部となり、さらに、平成17年3月31日にこの構成市町の自治体が合併し、新見市消防本部と改名されて現在に至っており、体制は1本部1署4分署、職員82人と消防団員1,133人で、管内面積793.29Km<sup>2</sup>、人口29,286人の防災に対応しております。

## 新見市消防本部の沿革

昭和 43.	4	政令指定により、新見市に消防本部・消防署が設置され、消防長以下22名水槽付消防ポンプ自動車1台、消防ポンプ自動車1台で発足した。
43.	12	消防庁舎完成、鉄筋コンクリート造り3階建、517.85㎡
44.	3	日本損害保険協会寄贈による消防ポンプ自動車（トヨタランドクルーザーA1）が納入された。
44.	4	連絡広報車（ニッサンセドリック）購入
44.	12	職員1名死亡退職、職員数21名となる。
45.	3	救急自動車（トヨタクラウン・2B）1台購入
45.	4	救急業務開始、職員6名を採用、職員数27名となる。
47.	4	新見市周辺の阿哲郡4町（大佐町、神郷町、哲多町、哲西町）が常備消防設置の政令指定を受け、同時に、県知事から阿新広域事務組合規約の変更が許可され、組合の事務に消防業務が加えられた。
47.	5	組織の変更により、従来の新見市消防本部・署の職員23名、消防ポンプ2台、無線施設等組合へ移行、新見市からの派遣職員4名と併せて職員27名で組合消防発足、当面周辺4町は予防業務のみ実施する。
47.	6	派遣職員（新見市）1名増員、実員28名となる。 広報車（いすゞライトバン1,600cc）購入
47.	7	5日間にわたる豪雨で管内各地に河川氾濫、土砂崩れ等の被害が続出、連日連夜、職員の水防活動が行われた。昭和47年7月豪雨と名付けられた。
47.	8	分駐所配置の小型動力ポンプ（トーハツV15AC1級）4台購入
47.	12	分駐所配置の消防ポンプ自動車（ニッサンFH60 3,950cc 日機R3F）4台購入
48.	4	職員30名採用、実員58名となる。（定員58名） 政令発効により、管内全域の消防業務を開始 刑部分駐所（大佐町）、新郷分駐所（神郷町）、萬歳分駐所（哲多町）、矢神分駐所（哲西町）の4分駐所を仮庁舎で開設、職員各7名を配す。
48.	6	分駐所庁舎完成、鉄骨ブロック平屋建て146㎡ 4カ所
48.	10	職員1名退職、実員57名となる。
48.	11	管内全域をエリアとする無線施設完成、運用に入る。（NEC） 周波数152.09MHz、150.33MHz 固定局 7局（基地局 5局）、移動局 22局
48.	12	日本船舶振興会寄贈による救急自動車（トヨタ2B）納入される。新見消防署に配置した。

49.	3	定数条例を改正、消防職員の定数を「64名」とした。
49.	4	職員3名採用、実員60名となる。
49.	6	職員3名採用、実員63名となる。
49.	9	日本船舶振興会寄贈による救急自動車（トヨタ2B）納入され、刑部分駐所に配置した。職員1名退職、実員62名となる。
50.	1	無線機（NEC）2台増設、救急自動車に搭載する。移動局24局となる。
50.	3	日本損害保険協会寄贈による救急自動車（トヨタ2B）納入される。新郷分駐所に配置した。
50.	4	無線機（NEC）1台増設、救急自動車に搭載する。移動局25局となる。
51.	3	岡山県共済農業協同組合連合会寄贈による救急自動車（トヨタ2B）納入される。 萬歳分駐所に配置した。
51.	4	職員2名採用、実員64名となる。 日本損害保険協会寄贈による救急自動車（ニッサン2B）納入される。矢神分駐所に配置した。
51.	5	無線機（NEC）2台増設、救急自動車に搭載する。移動局27局となる。
51.	6	派遣職員1名減員、実員63名となる。
51.	12	化学消防ポンプ自動車（Ⅱ型、日野KL501 6,210cc 日機R3）購入 新見消防署に配置し、老朽したタンク車を除却処分した。 無線機（NEC）1台増設、化学消防ポンプ自動車に搭載する。移動局28局となる。
52.	12	指揮連絡車（スズキジムニー55バン）2台購入、新郷、矢神分駐所に配置した。
53.	3	仮眠室増築工事完成
53.	7	専任消防長任命（新見市助役の事務取扱を廃止、消防署長が昇格）
53.	10	中国自動車道北房～東城間救急業務の引受け、併せて真庭消防本部、三次地区消防本部との間に消防相互応援協定を締結した。 定数条例を改正、消防職員の定数を「69名」とした。
53.	11	指揮連絡車（スズキジムニー55バン）2台購入、刑部、萬歳分駐所に配置した。
53.	12	救急指令装置（NEC B型）を配置、緊急電話12回線、一般加入電話4回線等と消防無線を収容
54.	1	救急自動車（ニッサンキャラバン2,000cc 2B）購入、中国自動車道救急業務に備えて新見消防署に配置した。

54.	3	指令査察車（ニッサンセドリックバン2,000cc）購入、新見消防署に配置し、老朽した広報車を処分した。 無線機（NEC）5台増設、救急自動車、指令査察車及び指揮連絡車3台に搭載、移動局33局となる。職員1名死亡退職、実員62名となる。
54.	4	職員5名採用、実員67名となる。
54.	5	職員1名補充採用、実員68名となる。
54.	7	職員1名病気退職、実員67名となる。
55.	4	職員2名採用、実員69名となる。
55.	7	全職員を消防庁告示による救急隊員の有資格者とするため、消防大学救急科
~56.	3	へ職員2名を派遣、部内講師として、署所ごとに72時間の補充講習を実施した。
56.	4	管理者制から理事会制に改正 消防本部に6係を設ける等機構の改善、整備を行った。
57.	2	岡山県共済農業共同組合連合会寄贈による救急自動車（ニッサン2B）納入される。新見消防署に配置した。
57.	4	消防庁舎（本部・署）用地・建物取得、敷地 2,082㎡ 建物 鉄筋コンクリート造り2階建延べ385.20㎡
57.	6	消防庁舎（本部・署）新築・改造工事着工
57.	9	日本損害保険協会寄贈による消防ポンプ自動車（ニッサンJ-FG160 3.6KWA1級）火災保険号「阿新」が納入される。新見消防署に配置した。 消防庁舎（本部・署）新築・改造工事竣工 消防署新築、鉄骨造り平屋建て420.07㎡ 既存棟改造
57.	10	新消防庁舎へ移転、業務を開始（所在地 新見市新見312番地の2）
58.	6	事務機構の一部改正により、消防本部に庶務課と警防課の2課（6係）を設けた。
58.	11	日本防火協会寄贈による防火広報車（ニッサンキャラバン）1台納入される。
59.	3	消防訓練塔完成
60.	7	災害の多様化、広域化に備え隣接消防本部（鳥取県西部広域行政管理組合、真庭消防組合及び高梁市）との消防、救急に関する相互応援協定を締結した。
60.	11	消防ポンプ自動車（BD-1）1台購入、新見消防署に配置老朽車両1台を廃車した。
61.	2	日本損害保険協会寄贈による救急自動車（ニッサン2B）納入される。

		刑部分駐所に配置、老朽車両を更新した。
61.	3	新見消防署にシャワー室併設の車庫79.18㎡を新築した。 職員1名退職、実員68名となる。
61.	9	消防ポンプ自動車（BD-1）1台購入、新郷分駐所の車両を更新した。
61.	10	職員1名採用、実員69名となる。
61.	12	消防本部通信指令室に無線第二基地局（全国、県内共通波）を設置した。
62.	1	新見市から、小型動力ポンプ積載車（ニッサン44年式）の移管を受ける。
62.	4	新見市からの派遣職員1名減員、実員68名となる。
62.	7	中国自動車道下り線213KP、新見市上熊谷地区で大型タンクローリーが横転し、積荷の毒物（フッ化水素酸）が流出、付近の住民避難や農作物、花木の枯渇、河川汚染等多大の被害があり、その防除活動に従事した。
62.	9	消防ポンプ自動車（BD-1）1台購入、矢神分駐所の車両を更新した。
62.	11	岡山県共済農業協同組合連合会寄贈による救急自動車（ニッサン2B）納入される。萬歳分駐所の車両を更新した。
62.	12	中国自動車道における、消防、救急に関する相互応援について岡山県内の関係4本部（英田、津山、真庭、新見）で協定を締結した。
63.	3	職員1名退職、実員67名となる。
63.	4	職員1名採用、実員68名となる。 新見大火50年、自治体消防発足40周年を記念して、新見市消防大会が開催され、記念式典及び消防演習に消防本部も参加した。
63.	6	第1回岡山県消防救助技術訓練大会が岡山市で開催され、ほふく救出の部とはしご登はんの部に出場、それぞれ優勝、入賞の好成績を収めた。
63.	12	救助工作車（Ⅱ型）1台、無線電話機1台及び救助用資機材を購入、新見消防署の救助体制を強化した。 消防ポンプ自動車（BD-1）1台を購入、刑部分駐所の車両を更新した。
64.	1	天皇陛下崩御、元号が「平成」に改められた。（1月8日） 平成元. 1 自治省消防庁「救急基金」の寄贈による救急自動車（ニッサン2B）1台が納入され、新郷分駐所の車両を更新した。
平成元.	3	職員1名退職、実員67名となる。
元.	4	職員1名採用、実員68名となる。
元.	7	消防指令車（スバルレガシーワゴン1,800cc）購入、新見消防署の車両を更新した。

元. 10	新見信用金庫から同金庫創立40周年記念事業の一環として、救急自動車（ニッサンキャラバン2B、4WD無線電話付）1台が寄贈、納入され新見消防署へ配置した。
元. 11	消防ポンプ自動車（BD-1）1台を購入、萬歳分駐所の車両を更新した。
元. 12	岡山県共済農業協同組合連合会寄贈の救急自動車（ニッサンキャラバン2B、4WD）1台が岡山県から配分され、矢神分駐所の車両を更新した。
2. 3	大規模、広域化する災害に対応するため、岡山県全域にわたる消防相互応援協定が締結された。（4月1日運用開始）
2. 10	職員1名病気退職、実員67名となる。
3. 1	日本損害保険協会寄贈の救急自動車（ニッサンキャラバン2B）1台が納入され、新見消防署の車両を更新した。
3. 4	職員1名採用、実員68名となる。
3. 8	日本船舶振興会（日本消防協会）寄贈の救急自動車（ニッサンキャラバン2B）1台が納入され、新見消防署の車両を更新した。
3. 9	定数条例を改正、消防職員の定数を「70名」とした。
4. 1	職員1名死亡退職、実員67名となる。
4. 3	定数条例を改正、消防職員の定数を「72名」とした。 消防無線施設（固定局、基地局、空中線）を更新、一部伝播状況を改善するため神郷町釜村に中継局を設置した。
4. 4	職員2名採用、実員69名となる。
4. 9	日本損害保険協会寄贈の水槽付消防ポンプ自動車（ニッサンU-CM87EE、日本ドライケミカルA-1級）1台が納入され、新見消防署へ配置した。
4. 12	消防連絡車（三菱V-U42V）2台を購入、新郷、矢神分駐所の車両を更新した。
5. 3	定数条例を改正、消防職員の定数を「82名」とした。
5. 4	職員3名採用、実員72名となる。
5. 6	各分駐所に電話転送装置を設置、消防本部でも対応可能となった。
5. 8	消防連絡車（三菱V-U42V）2台を購入、刑部、萬歳両分駐所の車両を更新した。
5. 9	新見ロータリークラブ創立20周年記念事業として、軽四輪ライトバン（スズキV-DF51V）1台の寄贈を受け、新見消防署に配置した。
5. 11	消防ポンプ自動車（CD-1）1台を購入、新見消防署の車両を更新した。
6. 1	消防通信指令施設の更新を行い同時に気象観測装置と災害情報自動案内装置を新規導入して運用を開始した。

6.	3	岡山県事業による防災行政通信ネットワークの衛星系工事が完成、一部消防本部、市町村等と衛星を使った各種通信が可能となった。
6.	4	職員7名を採用し、派遣職員1名を減員、実員78名となる。 事務機構の一部改正により消防本部が総務課、予防課、警防課の3課となり、消防署に新たに救急救助係を設けた。 分駐所の名称を大佐分署、神郷分署、哲多分署、哲西分署に改めた。
7.	4	職員5名採用、実員83名となる。
7.	5	職員1名退職、実員82名となる。
7.	12	岡山県共済農業共同組合連合会寄贈による救急自動車（ニッサン2B）1台が納入され、大佐分署の車両を更新した。
8.	4	派遣職員1名増員、実員83名となる。
8.	5	職員1名退職、実員82名となる。
8.	6	備北地区消防行政組合と中国自動車道における消防相互応援協定を締結した。
8.	9	職員1名退職、実員81名となる。
8.	12	化学消防ポンプ自動車（Ⅱ型、日野GDIJGB7, 960cc日機R3）を購入、新見消防署の車両を更新した。
9.	3	職員1名死亡退職、実員80名となる。 大佐分署新築（敷地1, 280. 69㎡、建物面積270. 06㎡）
9.	4	新見市消防団に関する事務を新見市へ移管、実員79名となる。 職員1名採用、実員80名となる。 消防職員と新見市職員の相互交流に関する協定書を締結した。
9.	9	職員1名採用、実員81名となる。
9.	12	消防ポンプ自動車（CD-1）1台を購入、神郷分署の車両を更新した。
10.	5	職員1名退職、実員80名となる。
10.	9	職員1名採用、実員81名となる。
10.	11	移動体の119番通報の受信を開始する。
10.	12	岡山県共済農業協同組合連合会寄贈による救急自動車（ニッサン2B）1台が納入され、哲多分署の車両を更新した。
11.	3	通信指令室（27. 565㎡）を増築 消防ポンプ自動車（CD-1）1台を購入、新見消防署の車両を更新した。
11.	8	救急自動車（ニッサン2B）1台を購入、新見消防署の車両を更新した。
12.	9	救急自動車（ニッサン2B）1台を購入、新見消防署の車両を更新した。既存車（H11. 8購入分）を神郷分署に移管した。

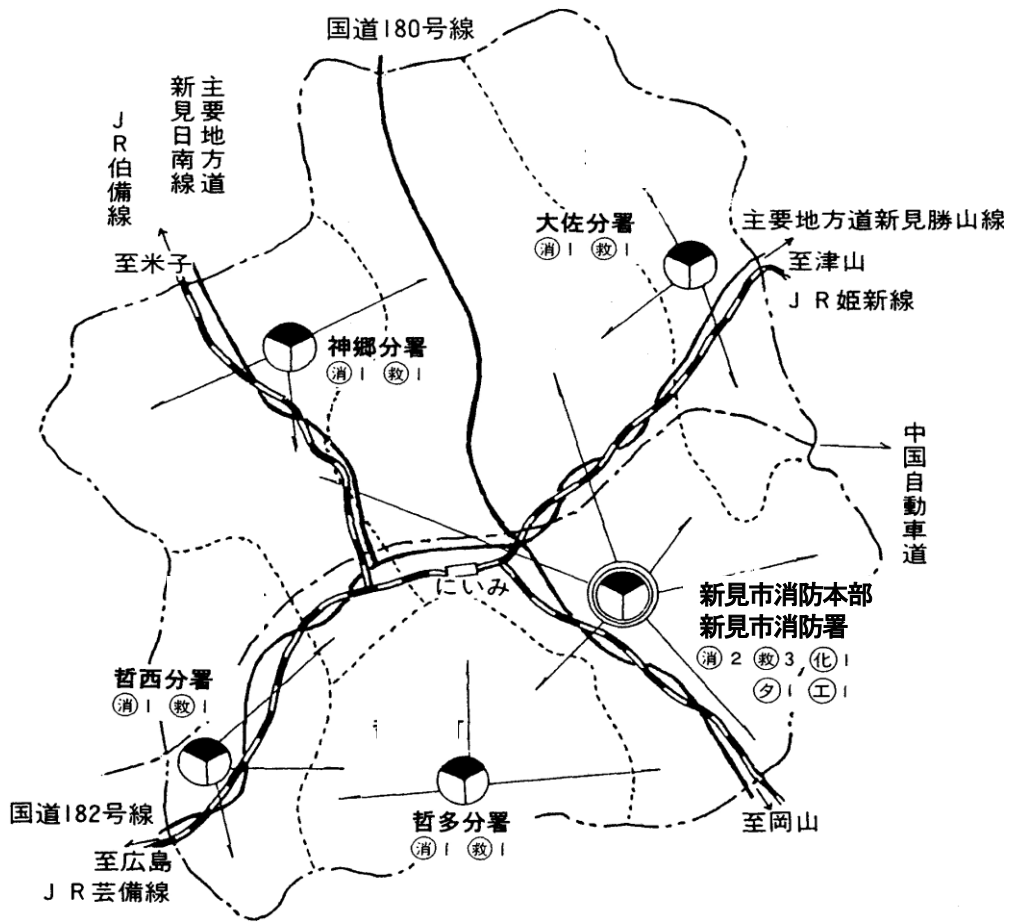
12.	12	岡山県共済農業協同組合連合会寄贈による救急自動車（ニッサン2B）1台が納入され、哲西分署の車両を更新した。
13.	7	高規格救急自動車（ニッサンGE-FLW50）1台を購入、新見消防署へ配置した。新見消防署に配置していた救急車（ニッサン2B）を廃車した。
13.	9	高規格運用に伴う医師の指示に関する協定書及び大規模救急事故等救急業務実施要綱に関する協定書並びにタクシー協会備北支部との覚書を締結した。
14.	3	職員2名退職、実員79名となる。 神郷分署新築（敷地1,274.31㎡、建物面積267.52㎡）
14.	4	職員2名を採用、実員81名となる。
14.	7	消防指令車（ニッサンエクストレイル）購入、新見消防署の車両を更新した。
15.	2	哲西分署新築（敷地1,281.29㎡、建物面積268.25㎡）
16.	3	哲多分署新築（敷地816.95㎡、建物面積268.00㎡） 職員3名退職、実員78名となる。
16.	4	職員2名採用、実員80名となる。
17.	3	新見市と阿哲郡4町（大佐町、神郷町、哲多町、哲西町）が行政合併し、「新見市」となる。阿新広域事務組合は解散し、新見地区消防本部は名称を「新見市消防本部」とし、新見消防署は「新見市消防署」とする。
17.	4	消防本部に「消防団係」を設ける。 定数条例を改正、消防職員の定数を「81名」とした。 新見市から1名出向、実員81名となる。
17.	7	職員1名死亡退職、実員80名となる。
18.	3	職員3名退職、実員77名となる。
18.	4	職員2名採用、実員79名となる。 職員1名退職、実員78名となる。
18.	9	職員2名採用、実員80名となる。
18.	11	高規格救急自動車（ニッサンTC-FPWGE50）購入、新見市消防署の車両を更新した。
19.	3	職員1名退職、実員79名となる。
19.	4	定数条例を改正、消防職員の定数を「85名」とした。 新見市から1名出向、新見市に2名帰任、実員78名となる。
19.	7	職員1名採用、実員79名となる。
20.	2	消防ポンプ車（CD-1）1台を購入、新見市消防署の車両更新。 日本消防協会寄贈による消防団活動車（ダイハツ軽四）1台が納入された。



20.	3	職員 4 名退職、実員 75 名となる。
20.	4	職員 5 名採用、実員 80 名となる。
20.	5	職員 1 名死亡退職、実員 79 名となる。
21.	3	職員 5 名退職、実員 74 名となる。
21.	4	職員 8 名（うち 1 名女性）採用、岡山県消防防災航空センターへの派遣職員 1 名、実員 81 名となる。
21.	8	日本宝くじ協会寄贈による消火・通報訓練指導車（マツダ タイタン）が 1 台納入された。
21.	11	高規格救急自動車（トヨタハイメディック）購入、新見市消防署の車両を更新した。
22.	1	消防ポンプ自動車（CD-1）購入。哲多分署の車両を更新した。
22.	3	高機能消防指令センター（消防緊急通信指令台）を導入
22.	3	職員 8 名退職、実員 73 名となる。
22.	4	職員 5 名（うち 1 名女性）採用、新見市から 1 名出向、実員 79 名となる。
22.	4	総務省消防庁から消防団救助資機材搭載型車両（いすゞ レッドシーガル）を 1 台借り受けた。
22.	6	救助工作車（Ⅱ型）を購入、新見市消防署の車両を更新した。
22.	7	職員 1 名退職、実員 78 名となる。
22.	8	全国共済農業協同組合連合会寄贈による高規格救急自動車（日産パラメディック）が納入され、新見市消防署の車両を更新した。
23.	3	職員 4 名退職、実員 74 名となる。
23.	4	職員 6 名（うち 1 名女性）採用、新見市へ 1 名出向、新見市から 1 名出向、実員 80 名となる。
23.	12	日本損害保険協会寄贈による高規格救急自動車（日産パラメディック）が納入され、新見市消防署の車両を更新した。
23.	12	女性職員、仮眠室増築工事完成
23.	12	職員 1 名退職、実員 79 名となる。
24.	1	女性職員、隔日勤務開始
24.	3	職員 3 名退職、実員 76 名となる。
24.	4	職員 4 名採用、新見市から 1 名帰任、実員 81 名となる。
24.	12	水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を購入、新見市消防署の車両を更新した。
25.	2	消防救急デジタル無線実施設計完了
25.	3	非常用発電機を新見市消防本部・新見市消防署の庁舎屋上に設置した。
25.	3	職員 1 名退職、実員 80 名となる。

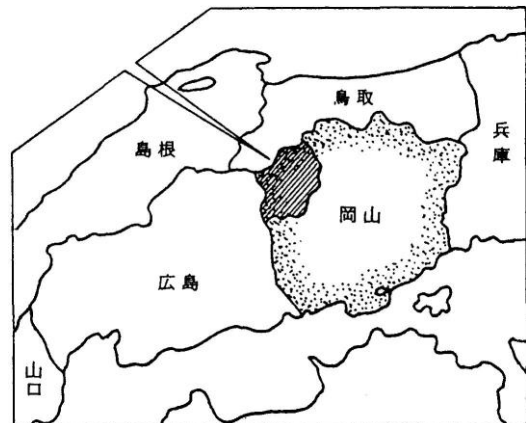
25.	4	職員 2 名採用、新見市へ 1 名帰任、岡山県消防防災航空センターから 1 名帰任、実員 82 名となる。
25.	6	消防救急無線デジタル化整備工事契約
25.	10	消防救急無線デジタル化整備工事着手
26.	3	職員 7 名退職、実員 75 名となる。
26.	4	職員 7 名採用、新見市へ 1 名出向、新見市から 1 名出向、実員 82 名となる。
26.	11	消防救急無線デジタル運用開始
26.	12	日本損害保険協会寄贈による小型動力ポンプ付軽消防自動車が納入され、新見市消防団の車両を更新した。
27.	2	総務省消防庁から救助資機材搭載型消防ポンプ自動車 1 台を新見市消防団に借り受けた。
27.	3	職員 7 名退職、実員 75 名となる。
27.	4	職員 6 名採用、新見市から 1 名帰任、新見市へ 2 名出向、新見市から 2 名出向、実員 82 名となる。
27.	12	救急自動車（2B 型）購入、神郷分署の車両を更新した。
28.	3	職員 6 名退職、実員 76 名となる。
28.	4	職員 4 名採用、新見市に 1 名帰任、新見市から 2 名出向、実員 81 名となる。
29.	1	職員 1 名退職、実員 80 名となる。
29.	2	職員 1 名退職、実員 79 名となる。
29.	3	職員 5 名退職、実員 74 名となる。
29.	4	職員 6 名採用、新見市から 2 名帰任、新見市に 1 名帰任、新見市から 3 名出向、岡山県消防防災航空センターへの派遣職員 1 名、実員 83 名となる。
29.	8	消防連絡車（スズキ エブリイ）を購入、哲西分署の車両を更新した。
29.	12	日本損害保険協会寄贈による高規格救急自動車（日産パラメディック）が納入され、哲多分署の車両を更新した。
30.	3	職員 4 名退職、実員 79 名となる。
30.	4	職員 3 名採用、新見市に 1 名帰任、新見市から 1 名出向、実員 82 名となる。
31.	3	高規格救急自動車（ニッサン パラメディック）購入、新見市消防署の車両を更新した。
31.	4	職員 5 名退職、実員 77 名となる。 職員 6 名採用、新見市に 2 名帰任、新見市から 1 名出向、実員 82 名となる。

### 3 管内図 (出動体系)



#### 凡 例

市 境 界	-----
主 要 道 路	————
高 速 自 動 車 道	-----
J R 線	▬▬▬▬
消防本部(消防署)	
分 署	
消防ポンプ自動車 (数字は台数を示す)	
救急自動車 ( " )	
化学消防車 ( " )	
水槽付消防車 ( " )	
救助工作車 ( " )	



#### 4 新見市消防本部の位置と状況

(平成31年4月1日現在)

位 置	東 経	北 緯
	133 度 28 分 25 秒	34 度 58 分 30 秒
面 積	793.29k m <sup>2</sup>	
広 範	東 西	南 北
	30.0km	35.0km
人 口	29,286 人	
世 帯 数	12,677 世帯	

#### 5 歴代消防長

歴 代	氏 名	在 任 期 間	備 考
初代	角田 忠夫	S43. 4. 1 ~ S44. 7. 18	新見市助役
2	赤木 孜一	S44. 7. 19 ~ S44. 10. 31	市長 代行
3	森宗 哲男	S44. 11. 1 ~ S52. 9. 30	新見市助役
4	渡邊 滋樹	S52. 10. 1 ~ S53. 6. 30	新見市助役
5	古屋 弘	S53. 7. 1 ~ S56. 5. 31	
6	竹本 博	S56. 6. 1 ~ S57. 5. 31	
7	生田 和男	S57. 6. 1 ~ S59. 3. 31	
8	城谷 廣	S59. 4. 1 ~ S60. 3. 31	
9	山本 靖弘	S60. 4. 1 ~ S62. 3. 31	
10	森下 博	S62. 4. 1 ~ H元. 3. 31	
11	小林 薫	H元. 4. 1 ~ H4. 3. 31	
12	池田 稔	H4. 4. 1 ~ H6. 3. 31	

13	小寺 令治	H 6. 4. 1 ~ H 8. 3. 31	
14	小林 玄造	H 8. 4. 1 ~ H10. 3. 31	
15	池上 弘幸	H10. 4. 1 ~ H13. 3. 31	
16	赤井 忠義	H13. 4. 1 ~ H14. 3. 31	
17	西村 武夫	H14. 4. 1 ~ H15. 3. 31	
18	赤井 潔志	H15. 4. 1 ~ H17. 3. 30	
19	清水 博	H17. 3. 31 ~ H19. 3. 31	
20	高下 瀧昇	H19. 4. 1 ~ H22. 3. 31	
21	大本 正治	H22. 4. 1 ~ H23. 3. 31	
22	小川 節雄	H23. 4. 1 ~ H25. 3. 31	
23	西村 定	H25. 4. 1 ~ H27. 3. 31	
24	前原 幸治	H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31	
25	吉田 裕明	H28. 4. 1 ~ H29. 3. 31	
26	安松 潔	H29. 4. 1 ~ H31. 3. 31	
27	名越 淑郎	H31. 4. 1 ~	